

5月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 0.0km~15.0km
			管轄出張所:安城出張所
実施日	平成 31年 5月 1日	実施区間	左岸11.0kmから



5月1日左岸11.0km
表側から低水路を望
む



左岸11.0km表側
志貴野橋付近を撮影



5月3日左岸1.6k
m表側低水路は連休
で人でいっぱい。シ
ジミ採りの人と思わ



左岸1.6km表側高
敷駐車場は1杯だっ
た

5月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 0.0km~15.0km
			管轄出張所:安城出張所
実施日	平成 31年 5月 3日	実施区間	左岸4.6kmから0.2 km



左岸1.6km表側から矢作川大橋を見る。



左岸4.6km裏側法面の草花が咲いている。

ハナニラ(花薺、学名: *Iphelia uniflorum*)はネギ科ハナニラ属に属する多年草^[1]。イフェイオン、ペツレヘムの異とも呼ばれる^[2]。原産地はアルゼンチン^[3]。

- 目次 [非表示]
- 1 特徴
- 2 注
 - 2.1 注釈
 - 2.2 出典
- 3 参考文献
- 4 関連項目

特徴 [編集]

日本では、明治時代に園芸植物(観賞用)として導入され、逸出し帰化している^[1]。

葉にはニラやネギのような匂いがあり^[1]、このことからハナニラの名がある。野菜のニラ(学名 *Allium tuberosum*)は同じ亜科に属するが、別属である。

ハナニラ



ハナニラ

分類

界: 植物界 Plantae
門: 被子植物 angiosperms
綱: 単子葉類 monocots
目: キジカクシ目 Asparagales

花の名を調べるとハナニラピンクではと
思われるのですがピンクは珍しいそうです。

「ハナニラ」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(<http://ja.wikipedia.org/>)。2016年9月8日17時42分(日本時間)現在での最新版を取得。



左岸表側低水路ここでも潮干狩りの人がたくさん見える、ハマグリも採れるそうです。

5月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 0.0km~15.0km
			管轄出張所:安城出張所
実施日	平成 31年 5月 9日	実施区間	左岸4.0kmから



左岸4.0km表側から棚尾橋を見る。シジミ採りの人がいた。1時間くらいで手のひら2杯位採れたそうです。



左岸4.0km表側護岸には漁師船が転覆していました。



左岸4.0km表側低水路の水面は青のり？が大量に付いていました。

海水の富栄養化などが原因でアオサが大量繁殖すると緑藻(グリーンタイド)となる。その多くが不稔性のアオサである。稔性のアオサは遊走子や配偶子を放出すると枯死してしまうのに対して、不稔アオサは成熟せず成長し続けることとなる。

大量繁殖したアオサは漁網に絡まり、沿岸に漂着したものが腐敗して悪臭を発し、多量に堆積すると底生生物を窒息状態に陥らせる。悪臭の問題は既に1921年に日本海産学の祖である岡村金太郎によって指摘されていたが、顕著化したのは水質汚濁が進んだ1970年代以降である。『[アオサの大量繁殖は自然環境への打撃のみならず漁業や観光\(海水浴やウォータースポーツ、潮干狩り等\)への長期的打撃をも与える。](#)』

しかしアオサは成長が早く、海水中の炭素や窒素、リン、栄養塩などを効率よく吸収するため、海水の浄化に寄与している一面も持つ。

日本各地で現出するアオサ緑潮の原因種は発生箇所や発生時によってさまざまだが、日本沿岸でよく見られるアナアオサ型、温暖海域生息のアミアオサ型とリボンアオサ型、そしてヨーロッパでよく見られる *U. armoricana* 型の4分類群が原因種だと推定されている。

漂着したアオサ

朝食の味噌汁に我が家ではアオサを入れていますが食用には良いかも？

「アオサ」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(<http://ja.wikipedia.org/>)。2018年10月1日02時02分(日本時間)現在の最新版を取得。

5月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 0.0km~15.0km
			管轄出張所:安城出張所
実施日	平成 31年 5月 9日	実施区間	左岸4.0kmから



左岸4.0km表側
高敷の草花を撮る。



拡大写真ノイバラが
群生してる。秋ごろ
に実を採取してハー
ブ茶にできないもの

ノイバラ(野茨、学名:*Rosa multiflora*)は、バラ科の落葉性のつる性低木。日本のノバラの代表的な種。沖縄以外の日本各地の山野に多く自生する。ノバラ(野薔薇)ともいう。

目次 [非表示]

- 1 特徴
- 2 分布と生育環境
- 3 利用
- 4 文化
- 5 ギャラリー
- 6 脚注
- 7 参考文献

ノイバラ(クロネキスト体系)



ノイバラ(神奈川県横浜市・2007年5月)

分類

界:植物界 Plantae
門:被子植物門 Magnoliophyta
綱:双子葉植物綱 Magnoliopsida
亜綱:バラ亜綱 Rosidae
目:バラ目 Rosales

「ノイバラ」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(<http://ja.wikipedia.org/>)。2019年5月30日14時34分(日本時間)現在での最新版を取得。



5月4日の低水路の
夕焼け

5月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 0.0km~15.0km 管轄出張所:安城出張所
実施日	平成 31年 5月 9日	実施区間	左岸4.0km付近



低水路の浅瀬には小ハゼがたくさんいます。



クラゲの仲間か砂浜に残されていました。。



高敷の野花。

マツバウンラン(松葉海蘭、学名: *Nuttallanthus canadensis*)は、ゴマノハグサ科一年草または二年草。葉の形が松葉、花がウンラン (*Linaria japonica*) に似ていることからこの名がつけられた^[1]。

- 目次 [非表示]
- 1 形態・生態
 - 2 分布
 - 3 下位分類
 - 4 脚注
 - 5 参考文献
 - 6 関連項目
 - 7 外部リンク

形態・生態 [編集]

高さは20-60cmで、先端に紫色の花をつけ、下の方に細長い葉をつける。花期は4-6月。

マツバウンラン

Nuttallanthus canadensis
(2007年4月27日)

分類 (APG II)

界: 植物界 Plantae

ネットで調べたらこれに似ていたのですがマツバウン

「マツバウンラン」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(<http://ja.wikipedia.org/>)。2019年6月5日14時36分(日本時間)現在の最新版を取得。

5月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 0.0km~15.0km 管轄出張所:安城出張所
実施日	平成 31年 5月 9日	実施区間	左岸4.0km付近



オオキンケイギク

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

オオキンケイギク(大金鶏菊、学名: *Coreopsis lanceolata*)はキク科の植物の一種で、黄色い花を咲かせる。北アメリカ原産の宿根草で、日本ではワイルドフラワーに利用されていたが、外来種として野外に定着して問題となり、現在は栽培が禁止されている^[1]。



ギンギシ(羞恥、*Rumex japonicus*)はタデ科の多年草。やや湿った道ばたや水辺、湿地、田のあぜなどに生え、日本全国に分布する^[1]。生薬名は、羊蹄(ヨウテイ)^[2]。

- 目次 [非表示]
- 1 特徴
- 2 名前の語源
- 3 利用
- 4 脚注
- 5 参考文献

特徴 [編集]

一見スイバと似ているが、高さは、40-100cmになる。根もとに生える葉は、長さ10-25cmの長楕円形で長い柄があり、基部がハート形になるが、上部の葉は柄が無く幅も狭くなる^[1]。葉の縁は大きく波打つ。茎の上部で分枝し多数の花序を出す。緑色で小さい花を輪生させる。花は花弁を5枚、6片の萼からなる。花期は、6-8月。^[1] 花



左岸裏側4.0kmの法面に咲く花

野アザミの花とオオキンケイギク(栽培禁止)、ギンギシ。



特徴 [編集]

地下茎は横に這い、所々から少数の葉をまとめて出す。地上には花茎以外にはほとんど葉だけが出ている状態である。葉には細くて硬い葉柄があって、その先はやや幅広くなり、広線形。葉はほとんど真っすぐに立ち上がり、高さは30-50cm程になる。葉の裏表の差はあまりない。葉の縁はざらつがススキほどではない。

葉は冬に枯れるが、温暖地では残ることもある。この時期、葉は先端から赤く染まるのが見られる。

初夏に穂を出す。穂は細長い円柱形で、葉よりも高く伸び上がり、ほぼまっすぐ

<i>Imperata cylindrica</i> L.
和名
チガヤ

穂(2008年5月)

チガヤの穂がたくさん生えていました。

「オオキンケイギク」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(<http://ja.wikipedia.org/>)。2018年6月4日1時37分(日本時間)現在での最新版を取得。

「ギンギシ」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(<http://ja.wikipedia.org/>)。2018年5月3日3時27分(日本時間)現在での最新版を取得。

「チガヤ」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(<http://ja.wikipedia.org/>)。2019年4月14日22時57分(日本時間)現在での最新版を取得。